令和6年度　熊本県立人吉高等学校　五木分校　シラバス

教科	理科	科目（単位数）	生物基礎（２）	学年	３年	類型	普通科

学習目標	生物学の基本的な概念や原理・原則を理解し，科学的な見方や自然観を育成する。日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め，観察・実験を通して，生物学を探求する能力と態度を養う。

期間	単元（学習内容）	評価基準			評価方法
		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】	
4月 5月 6月 7月	第３章　ヒトのからだの調節 １節　体内環境 ②体液とその働き ③体液の調節 ２節　体内環境の維持のしくみ ①情報の伝達 ②自立神経系による情報伝達 ③内分泌による調節 ④内分泌系と自律神経系による調節 ３節　免疫 ①生体防御と免疫 ②自然免疫のしくみ ③獲得免疫のしくみ ④免疫と疾患	・腎臓での塩類濃度の調節や，肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。 ・ホルモンの分泌により血糖値が保たれていることを理解しており，ホルモンの分泌不足により発症する疾患についての知識を得ている。 ・病原体などの異物を認識，排除するしくみを理解している。	・腎臓の塩類濃度調節や体温の調節が，臓器や細胞から分泌されるホルモンなどの物質により調節されていることを考察できる。 ・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し，表現できる。 ・複数の実験により得られたデータを比較・分析することにより，結論を導き出すことができる。	・腎臓による塩類濃度調節や，肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解しようとする。 ・ホルモンの分泌により血糖値が保たれており，ホルモンの分泌不足により発症する疾患について調べようとする。 ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。	・定期考査 ・授業態度 ・課題・レポート ・小テスト
9月 10月 11月 12月 1月	第４章　生物の多様性と生態系 １節　生態系とその成り立ち ①生態系 ②植生とその進化 ③遷移のしくみ ２節　植生とバイオーム ①世界のバイオームとその分布 ②日本のバイオーム ３節　生態系と生物の多様性 ①生物の多様性 ４節　生態系のバランスと保全 ①生態系のバランス ②人間生活による環境への影響 ③生態系の保全の重要性	・陸上には，森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ，植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 ・地球上には，気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 ・窒素や炭素の物質循環のしくみを理解している。 ・生態系のバランスや，生態系の保全の重要性について理解している。	・植生の成り立ちが，林内の光環境や植物の光に対する特性，土壌の発達段階に影響を受けていることを考察することができる。 ・気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは，バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し，それを表現することができる。 ・物質の循環を体系的に考察することができる。 ・生態系の保全の重要性について，生物の多様性の視点から考察することができる。	・陸上には様様な植生がみられ，それらは不変ではなく，長期的には移り変わっていくことを理解しようとする。 ・地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。 ・生態系において，物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが移動することを理解しようとする。 ・生態系のバランスについてや，生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。	・定期考査 ・授業態度 ・課題・レポート ・小テスト

使用教材 （教科書・副教材）	高校生物基礎（実教）
学習方法	①全体指導の中で、発問を積み重ねて理解させる。その際、説明し合い学び合う場をつくる。 ②授業中の問題演習、家庭で取り組む課題等で、学習内容の確認を行い定着を図る。 ③できるだけ実験を行い、体験的に学習内容を理解する。
評価について	①定期考査 ②課題・レポート等の提出 ③授業中の取り組み ④小テスト